

『実践報告』

成人期（入所施設）における 支援の実際



社会福祉法人 栗原秀峰会
障害者支援施設

ほっとさわべ2 油井 理央

社会福祉法人 栗原秀峰会

【事業内容】

- ・ほっとさわべ・・・障害者入所施設
- ・あらいぶ・・・相談支援事業所
- ・パン工房いそっぷ・・・生活介護事業所, 就労B型事業所
- ・すぷりんぐ・・・生活介護事業所
- ・くりこまゆめ工房・・・生活介護事業所
- ・レガート・・・共同生活援助事業所

※グループホームは各事業所が運営
→より身近な所での支援を目的とする

障害者入所施設 ほっとさわべ

【障害者入所施設】

- ・ほっとさわべ1, ほっとさわべ2
(各30名定員)
- ・建物は小舎制を採用
- ・独立した居住棟が7棟
- ・全部屋が一人部屋となっている
- ・小集団での生活を通して, 一般家庭での生活をコンセプトに支援を行う。
- ・グループホームを意識した自立支援を展開。



【内 容】

1 当時を振り返ると

2 支援の実際

障害者支援施設（入所施設）での支援

3 まとめ

行動障害

自閉症

1 当時を振り返ると

障害特性

チーム
アプローチ

法人独自の強度行動障害の研究

1. 強行研究を支える組織としての合意
2. コンサルタントの基本スタンス
3. 支援の理念「自立」の概念を知る
4. 支援の基本の考え方の習得（共通言語の構築）
5. モデルケースから実践的に支援の考え方を学ぶ。
6. 検討に客観性を入れる
7. 支援と行動の検証
8. 研究チームで得た知見を他の職員と共有する。
9. 効果的に学びをつなぐ
10. 学びによる法人内外への拡大

- 集団生活だから施設生活の中で皆と同じようにどう適応させるのかといった支援を行っていた。
- ご本人の障がい特性を分かろうとせず、理解できない言葉を使って支援していた。
 - ① 言葉でも分かります。……周囲の行動やパターンで
 - ② 声掛けすればできます。…指示待ち、
声掛けされないと動かない
自信を持って行動してる？
- 職員が困っていたが、ご本人さんはもっと困っていることにも気付かず。
→ 『行動障害（自閉症）だから仕方ないよね』

全職員が行動障害に対する理解が不足していた。

- 施設生活で混乱し、大声を出し暴れ、建物が破壊されては修理をする**毎日**。
- 利用者同士の相性が合わず、見かけるだけ・すれ違うだけで向かっていき、噛みついたり、叩いたり。ケガで通院・入院、父兄へ謝罪、報告書など書類作成の**毎日**。
- 生活のリズムが整わず、昼夜逆転し、夜間に徘徊する**毎日**。
- 道路への飛び出しや裏山への走り出し、搜索する**毎日**。
- 先の予定を気にして不安定となり、自傷行為に及ぶ**毎日**。
- A職員の時には静かに過ごしているのに、自分が支援に入ると落ち着かなくなると悲観する**毎日**。
- パニック行動が見られるたび、原因や具体の支援方法が分からず、落ち着くのをじっと見守るだけの**毎日**。

何とかしないと

～困っていることへの気付き～

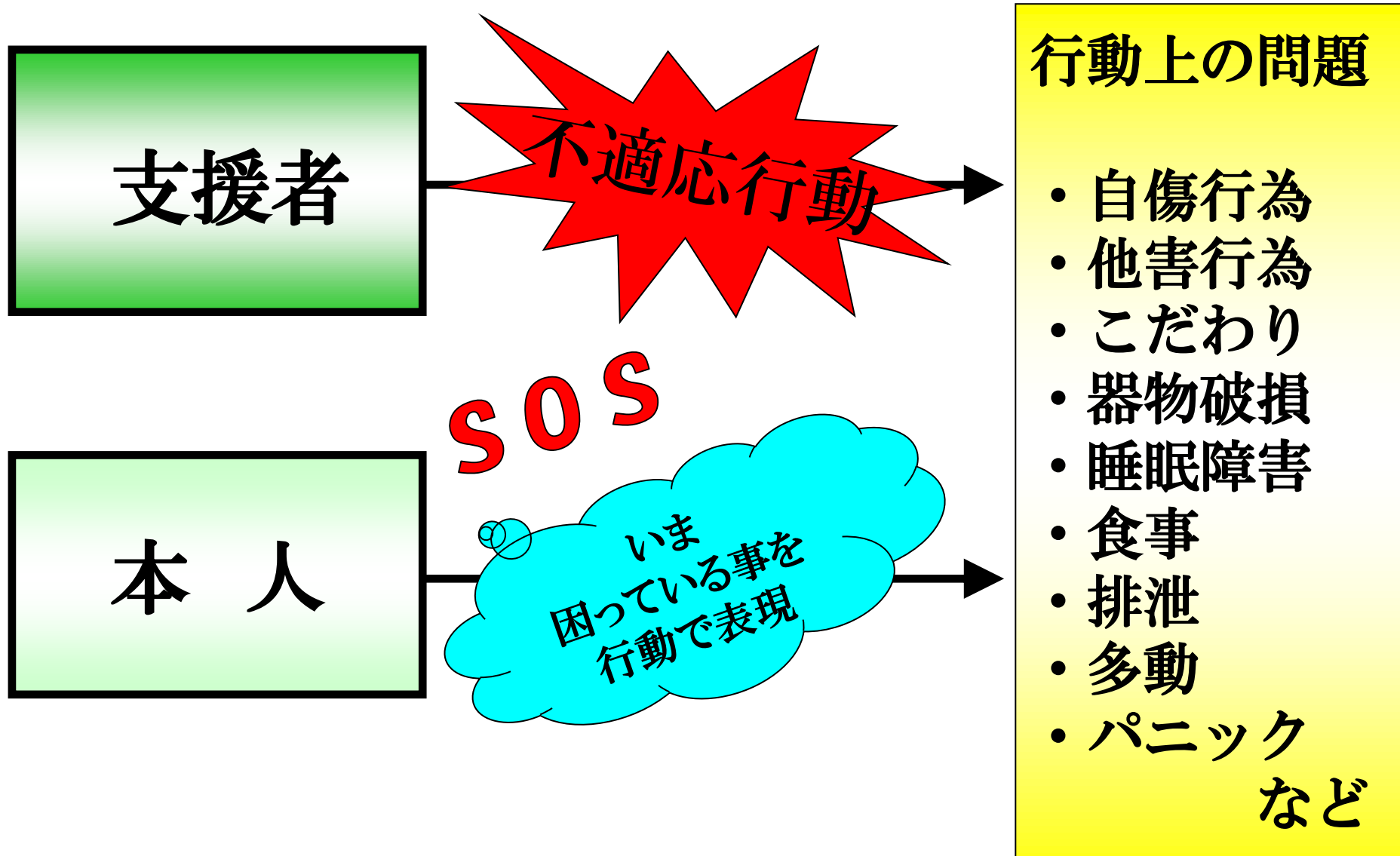
当時、私たち支援者は**困った行動**ばかりに
目を奪われがちで、その行動を何とかしたい、
やめさせようとすることに必死でした。

でも、**一番に困っていたのは**私たちではなく、
ご本人であること、このことに気付くまでに
ずいぶんと時間がかかりました。

理解を深めるために

- ☑ 職員の資質向上に向け、研修会への参加
- ☑ 先進施設へ視察
- ☑ 臨床心理士によるコンサルテーション（隔週～月1回）

行動障害とはいうけれど...



An illustration of an iceberg floating in the ocean. The top part of the iceberg is above the water line, and the bottom part is submerged. Three callout boxes with yellow borders point to different parts of the iceberg. The top box points to the visible peak, the middle box points to the submerged part, and the bottom box points to the base of the submerged part. The background is a light blue sky with a sun and clouds, and a dark blue ocean.

見えている行動

行動の背景と要因

影響する環境

不適応行動＝ご本人からのSOS

行動障害の軽減に向け、ご本人の**強み**に
寄り添った支援をしていく手立てとして
見て分かりやすい支援を心掛けましょう。

- 一目で見て分かる状況
- 見通しがあり予測可能
(始まりと終わりが分かる)
- 指示されずに自分でできる

2 支援の実際

工房ふくろうについて

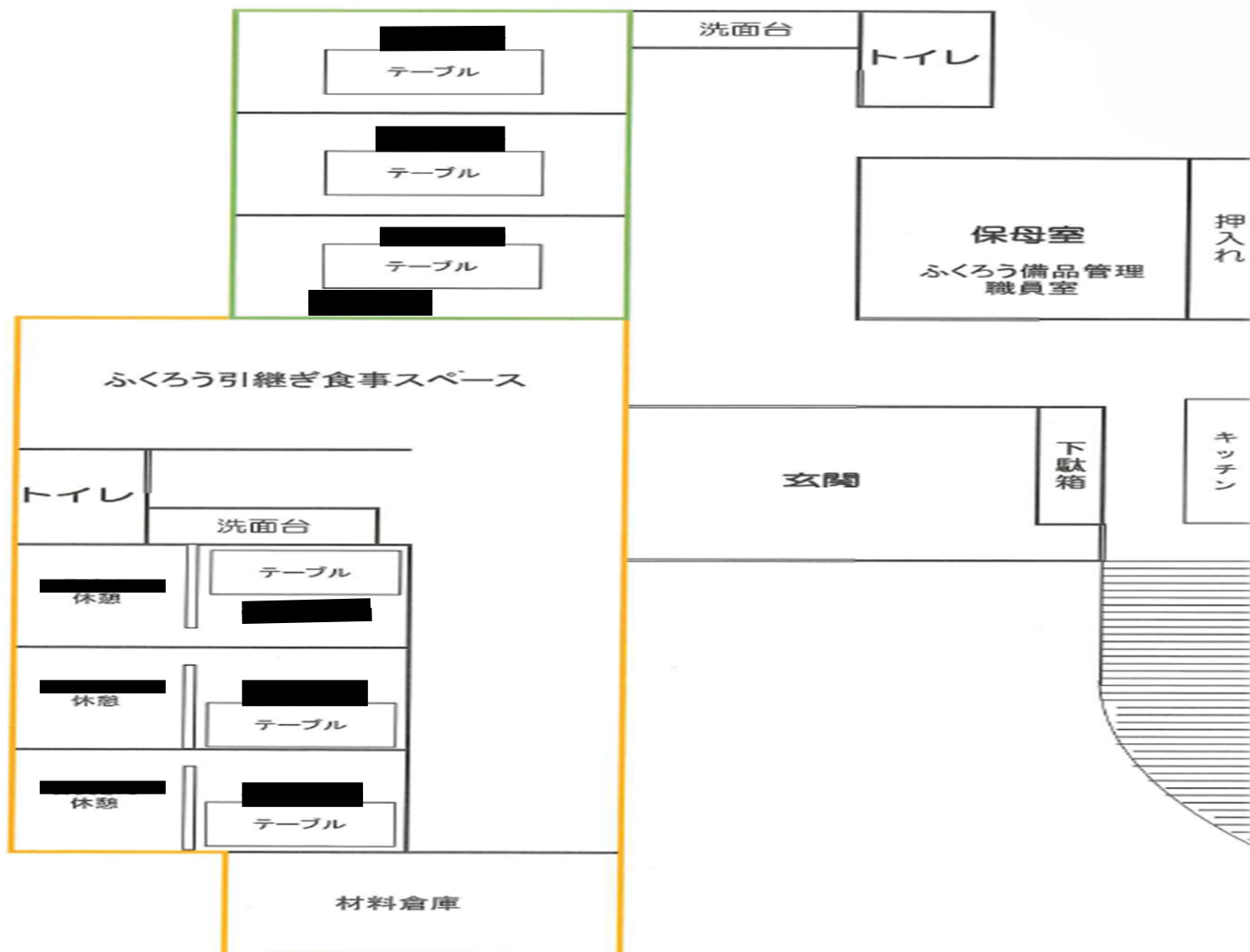
- ・施設入所支援利用者の日中活動のための生活介護事業所
- ・利用者5名（5名が自閉症と重度知的障害）区分5～6
- ・専門の職員の配置

活動内容・・・ゴミ袋の梱包作業、手工芸等

1 0 : 0 0	朝の会	1 1 : 4 5	昼食
	スケジュール確認	1 2 : 3 0	休憩
1 0 : 1 0	活動①	1 3 : 3 0	活動③
1 0 : 4 0	休憩	1 4 : 0 0	ティータイム
1 0 : 5 0	活動②		掃除・身支度
1 1 : 2 0	休憩	1 5 : 0 0	送迎・帰園

個々の特性に配慮し、必要な情報を整理して混乱を防ごう。

事業所の間取り（物理的構造化）



活動する場所 (集中への支援)

集団で作業するのではなく、個々の集まりが集団になっています。
本人の特性を踏まえ必要に応じて
周囲の刺激を軽減する配慮をしています。



食事する場所



物や場所の意味・理解



コップ



下駄箱

見通しへの支援

具体物

写真

文字



見通しへの支援

1日の予定



1ヵ月の予定



1週間の予定



活動・課題の見通し

どれくらいの量？

何するの？

いつ終わるの？

終わった次は？



休憩する場所 (落ち着くことへの支援)

休憩は個別でとるもの。それぞれの休憩スペースが確保されています。好きな雑誌を見たり、ソファに横になったり、感覚ボールで遊んだりとリラックスできるような空間になるよう配慮しています。



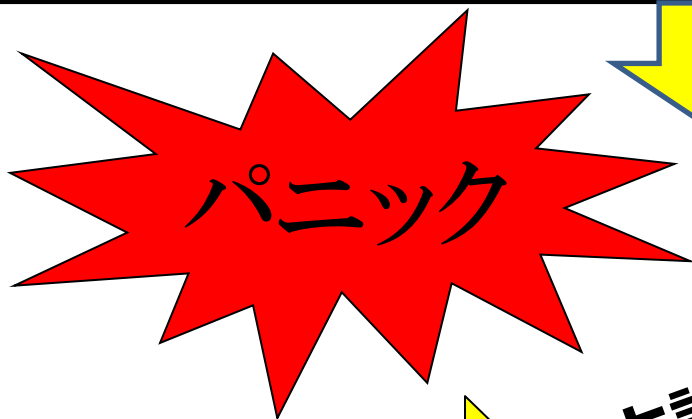
余暇時間を過ごすために

例えば同じ 1 時間を過ごすにしても・・・

①

休憩

60分



自立課題

モップ掛け

②

休憩

20分

2分

休憩

20分

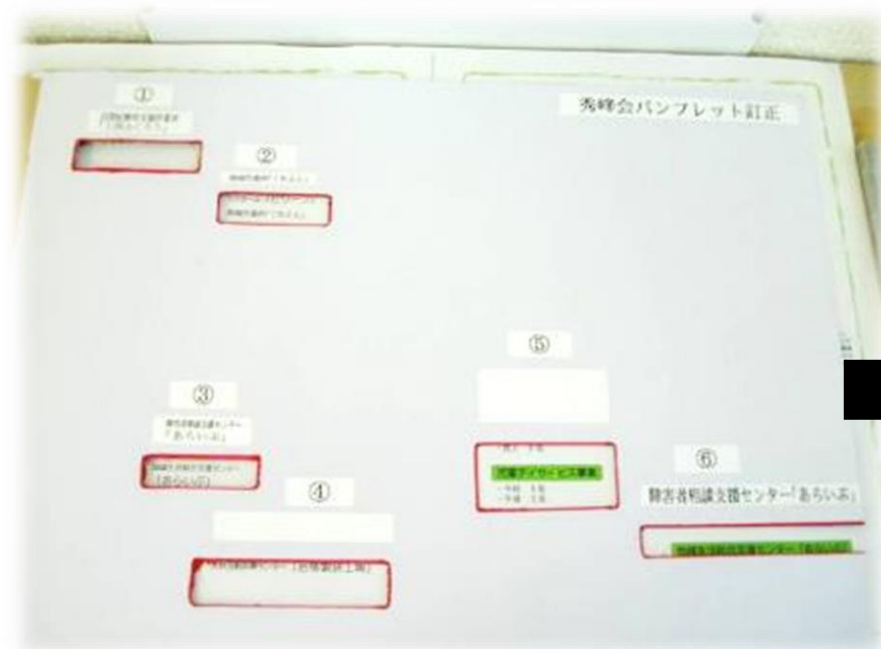
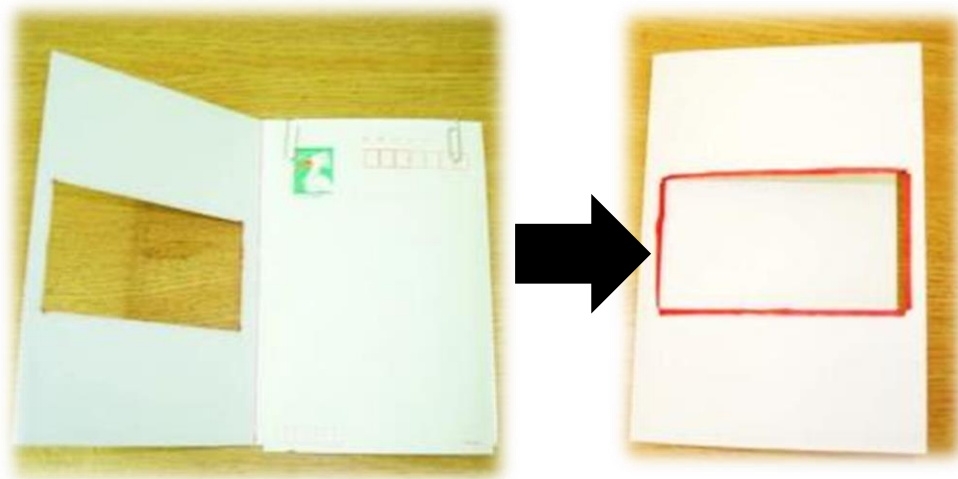
3分

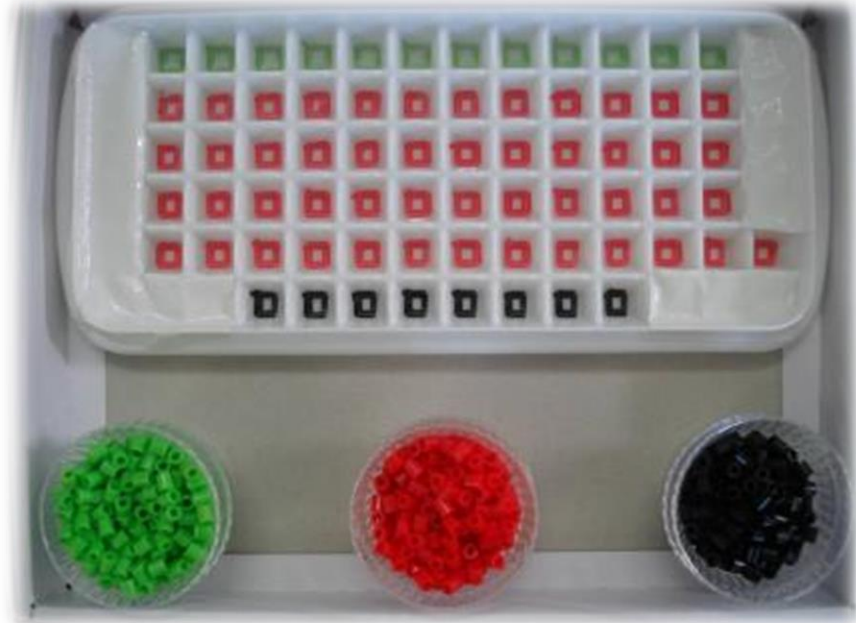
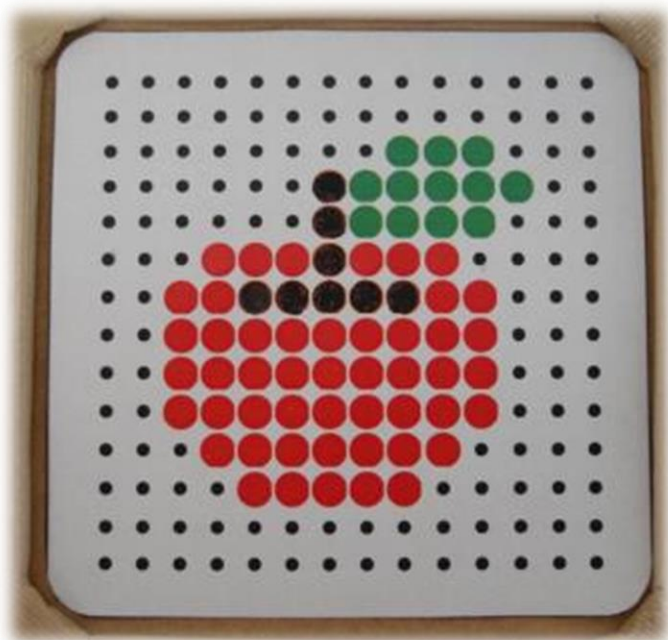
休憩

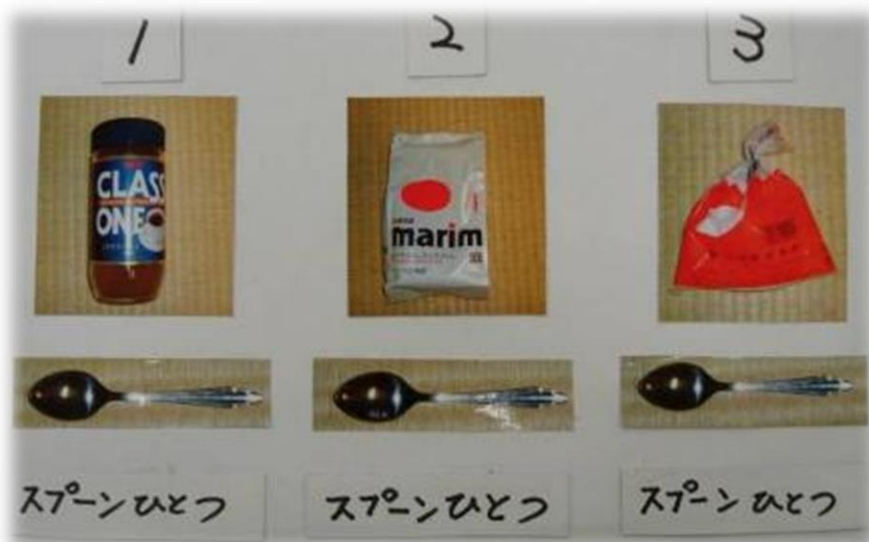
20分

余暇時間(自由時間)＝何をしてもよい時間は何をしたらよいのかが分からない不安な時間。自由時間にすることがなく問題行動に発展している場合もあります。

指示理解への支援







どれくらいの量を入れたらいいの？



自分で適量の飲み物を作るために

3 まとめとして

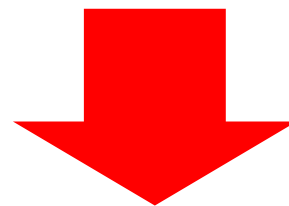
生活全体を見直すことで行動障害の 軽減を実感！

- 日中活動だけでなく、生活全体の見直し。
 - ・ 食事，睡眠，排泄を整える。
 - ・ 入所施設の強み。 ≠問題行動を無くす
- 個々の障害特性をアセスメント
- 特性に配慮した環境設定（構造化）
- 課題分析（行動分析） 新しいコトやエラー修正
- 問題となる行動のチェック（記録の活用）

障がい特性 × 個別の特性 × 環境
(学ぶ) (見つめる) (配慮する)

⇒ 有効な (=オーダーメイドの) 支援

- こだわり・頑固 → 真面目、几帳面
- マイペース → 人に左右されない
- 感覚過敏 → 違いが分かる



障がい特性 × 個別の特性 × 環境
(学ばない) (見つめない) (配慮しない)

⇒ 行動障害を誘発

『予防のための支援』を組み立てる

行動障害は生まれながら持っている障害ではなく、不適切な支援や環境によってつくられた**二次的**な障害です。

- ☑ 行動障害をつくらないようにすることを考える
- ☑ 本人も支援者も大変な思いをしなくてよいように
- ☑ ご本人の障害特性や困り感、強みを理解し支援することが行動障害を予防する

行動障害へ対応した支援

すでに行動障害を起こしてしまっている方や、どれだけ配慮や支援の工夫をしても行動障害が起こることを防ぐことができない方がいることも事実です。

- ☑ **根拠のない支援は行動障害の改善にはならない。**
(ますます問題となる行動を強化してしまうことも)
- ☑ **やはり障害特性の理解からはじまる**
- ☑ **環境要因・行動の前後の様子・支援者の接し方**
- ☑ **行動修正や好ましい行動をするための方法を検討**
- ☑ **支援者だけでは対応でない場合、外部の専門家による助言などのコンサルも有効的。**

さいごに

- ☑ 支援不足・配慮不足をご本人の障がいのせいにしない
- ☑ ご本人の意思を大切にする ≠ ご本人の言いなりになる
- ☑ チームアプローチを大切に。自分の力の限界がご本人の限界にもなる。みんなで考えることで支援の限界値を引き上げよう！
- ☑ 『困った方』ではなく『困っている方』という捉え
- ☑ 行動障害は一生涯続くものではない。今が一番大変！
- ☑ 支援者が支援を考えなくなった時、その支援は衰退する。

ご清聴ありがとうございました。

